



いわき教育事務所（指導担当）の取組

## 令和7年度第2回SSR等（不登校対策）担当教員研修会

開催日：令和7年9月22日（月）

会 場：いわき合同庁舎

### 【ミニ講座】「SOSの受け止め方」より①

スクールカウンセラースーパーバイザーの窪田文子先生より、子どもがストレートにSOSを発信することは稀であるということ、そのため、受け止める側が、やりとりの中での「言葉」や「表情・行動」などから、子どもが発信していることをできるだけ多くキャッチできる「受信の精度」を上げることが大切であることを教えていただきました。



### 【ミニ講座】「SOSの受け止め方」より②

子どもから発信されたことを、

- ・ 発達の文脈(乳児期・幼児期・児童期・青年期前期)で捉える
- ・ 環境的文脈(子どもを取り巻く家族や学校、隣人など多岐にわたる関係)で捉える
- ・ 生物・心理・社会的側面で捉える

ようにしていくことが求められます。早急な判断や審判的な態度、自身の価値観での判断などにならないように留意します。



### 【協議】様々な要因で・・・

長期にわたって継続して学校を休んでいる子、急に休みがちになった子など、一人一人の状況は様々です。要因も、明確な子もいれば、本人も家族もよく分からないままに・・・という子もいます。各校の担当者から具体的な関わり方について事例の紹介がありました。

### 【協議】組織での関わり大切さ

情報交換の中で浮かび上がってきたのは、不登校児童生徒への対応には、組織的な関わりが欠かせないということです。担任一人に任せるのではなく、管理職、養護教諭、学年、生徒指導主事などがチームとなり、生徒指導委員会や心の支援委員会などで情報共有し、役割を決めていくことが有効な手立てとなります。



次回は  
11月25日(火)です。  
一緒にいかがですか。

